

山口美和(著)

PT・OT のための これで安心 コミュニケーション実践ガイド

評者 中山 孝

(東京工科大学医療保健学部理学療法学科)



こんなコミュニケーション
テキストがほしかった!

「自分は本当に PT/OT としてやっていけるのだろうか?」
誰もが抱える不安に寄り添い、医療者としての自分を育てるために必要な
内容をわかりやすく解説した、PT/OT 教育に携わる者による実践テキスト
医学書院

「見事なコミュニケーション・テキストを書いてくれて、本当にありがとう」と、著者の山口美和氏に素直に伝えたい。私は著者と同じ専門学校に勤務していた時代、共に学生教育に悪戦苦闘した同僚教員として、著者がこの素晴らしい本を世に送り出したことへの称賛を惜しまない。

本書は「コミュニケーション臨床応用学」と呼べるほど、首尾一貫した理念と体系に基づいて記述されている。理学療法・作業療法領域では、往々にして用語の定義があいまいな書籍が多いが、本書は登場する用語をまず明確に定義し、次に論点を展開して解説しているため、読者にとって非常に理解しやすく、著者のメッセージがダイレクトに伝わってくる。普段の何気ない会話の背景に存在する確固たる「コミュニケーション理論」が根底にあることを読者に気づかせてくれる。このような観点から眺めると、本書は科学的理論に裏打ちされた実践書と言える。

一方で、本書には入学した学生が成長とともに遭遇すると予測されるコミュニケーション場面や具体例がふんだんに盛り込まれているため、臨場感にあふれ、読み進むにつれ読者を釘付けにする豊富な展開には目をみはるものがある。本書はいわゆる“How to 本”とは異なり、コミュニケーションが TPO(時, 場所, 状況)によりダイナミックに変化し得ることを強調しながら、解決すべきは当事者にあることを論理的に説いている。そして著者は、コミュニケーションは「理論を並べ立て、その筋書き通りに事を運ばずすべてめでたしである」という単純な解決法を提示するのではなく、実践・経験を通して自ら学ぶことが重要であると訴えている。さらに著者は、自分だけで解決できないときには援助を求めることが決して間違いではなく、

“自己肯定感”を高めるために必要なことであるとも述べている。本書に貫かれている著者の「学生への応援メッセージ」を随所で読み取ることができる。

テキストとしての構成も魅力的である。“節”ごとに要約を設けて強調したいエッセンスをリフレインしていること、ポイントがチェック式になっていること、“Work”という名の読者が与えられた課題を実際に解いていくことなど、本書には学習者の技能が定着することを意識した知恵と工夫が施されているのも特筆すべき点である。さらに本書では、コミュニケーションの場に応じた優先順位が明確に示され、わかりやすくまとめられている。長い年月にわたり臨床指導者として、また教育者として、つぶさに学生の成長を支援してきた著者の力量がここに結実した。

本書には、著者の「コミュニケーション」に対する幅広い知識と、これまでに携わってきた臨床・教育・研究場面での生きた経験を基にした深い洞察が凝縮されている。そして、学生への愛情、あらゆる人に対する温かいまなざしと博愛の精神に満ちた著者の人間性に触れることができる。正しい日本語の語法と場に応じた言葉遣いの達人が、コミュニケーションの重要性を伝えるために満を持して本書を世に送り出した。学生はもとより、複雑な人間関係、個性性の高い臨床現場の中で働く理学療法士・作業療法士のみならず、あらゆる関係者にぜひ一読していただきたい珠玉の 1 冊である。

●B5・232 頁・2 色刷

定価 2,940 円(本体 2,800 円+税 5%)

医学書院刊 2012 年